

## 平成 28 年度全国学力・学習状況調査(小学校)

## 算数 A

主として「知識」に関する問題

## 平均正答率

市	80.6%
国	[77.6%]
県	(79.7%)

## 区別定着状況

【数と計算】	82.3%	[80.5%]	(82.0%)
【量と測定】	82.2%	[77.0%]	(79.5%)
【図形】	84.5%	[78.8%]	(83.0%)
【数量関係】	70.3%	[68.5%]	(70.2%)

※ [ ] 内は全国平均を, ( ) 内は県平均を表します。

## 正答率の高い設問(上位3問)

- 二つの数の大小関係を表す不等号を書く  
(問3 (1)) 99.2% [96.7%] (97.6%)
- $905 - 8$  を計算する  
(問2 (1)) 93.8% [90.9%] (92.1%)
- $(2 \div 9) \times 3$  を計算する  
(問2 (4)) 90.7% [87.0%] (88.2%)

## 正答率の低い設問(下位3問)

- 定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く  
(問9 (2)) 54.3% [50.9%] (53.9%)
- $\square \div 0.8$  の商の大きさについて、正しいものを選ぶ  
(問1 (1)) 65.9% [64.8%] (67.2%)
- $2.1 \div 0.7$  を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く  
(問1 (2)) 72.1% [68.5%] (69.5%)

## 算数 B

主として「活用」に関する問題

## 平均正答率

市	49.8%
国	[47.2%]
県	(49.5%)

## 区別定着状況

【数と計算】	47.0%	[44.4%]	(47.1%)
【量と測定】	45.8%	[43.7%]	(45.0%)
【図形】	37.0%	[36.3%]	(36.9%)
【数量関係】	44.2%	[42.9%]	(45.5%)

※ [ ] 内は全国平均を, ( ) 内は県平均を表します。

## 正答率の高い設問(上位3問)

- 1辺が9cmの正方形の縦と横の長さを変えた時の面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く  
(問1 (1)) 93.7% [92.6%] (93.5%)
- 1辺が9cmの正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ  
(問3 (3)) 81.9% [76.5%] (78.0%)
- 示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ  
(問4 (2)) 68.5% [70.7%] (72.5%)

## 正答率の低い設問(下位3問)

- 示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く  
(問5 (1)) 5.5% [6.9%] (8.3%)
- 目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く  
(問2 (3)) 15.7% [15.6%] (16.9%)
- 示された四角形を並べてできる図形を選ぶ  
(問5 (2)) 23.6% [25.4%] (24.2%)

## 結果からわかること

## ○考察

算数A、算数Bともに全国平均を上回っており、これらの学習内容はおおむね定着していると考えられます。

## ○今後の指導について

今後、算数Aに関しては、百分率において基準量と比較量の関係を正しくとらえさせたり、目的に応じて計算の結果の見積もりをする場を適宜位置付け、計算の仕方や結果について振り返って判断できるようにさせたりする必要があります。

また、算数Bに関しては、図や式などを用いて問題を解決し、互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設けたり、立式するだけではなく、示された式について、その数値はどこから導き出されているか、どのような演算を行っているかなどを考えさせる場面を設けたりして、図や式に表されている意味を読み取らせる指導を充実させる必要があります。